

櫻製作所、提携を積極化

化学、食品などのプラント用機器を扱う櫻製作所（大阪市淀川区、井上正基社長、06・6302・5321）が業務提携を積極化している。2015年に帝国電機製作所と製品販売や生産の包括提携を締結。さらに北斗（東京都品川区、星正人社長、03・3471・5021）とも提携した。いずれも単なる機器販売から脱却しシステム納入を狙うものだ。中小企業の新たな生き残り策として注目される。

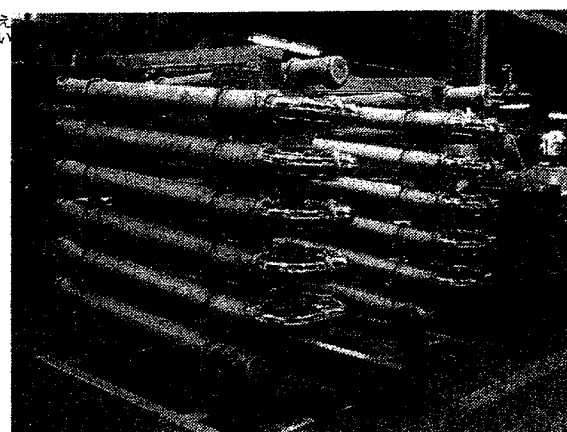
櫻製作所は溶液や汚取式熱交換器^{とくし}が得意な濃縮、粉末化する意。主に化学や食品、装置「ハイエバオレー化粧品などのプラントター」や、粘度の高いで採用されている。原料を過熱・冷却しつつ同社のライバルは規^き模の大きな海外企業。

TYPE OF INDUSTRY



工程全体をカバーするシステム納入を得意とし、機器単体で勝負する櫻製作所には分が悪かった。そこで「中堅中小の得意分野を組み合わせ対抗できれば」（井上社長）と、同じように機器単体を扱う企業との提携でシステム化を進めることにした。

帝国電機は完全無漏^{むろう}



斗は蒸気を吹き込み直^ち接過熱する「インライ」井上社長は商社出身していく。

櫻製作所のプラント機器「スケアミキサーユニット」で提携案件を多く手がけた経験を持つ。「お互いの販売網やノウハウを生かし合う方が得策」（同）と口説き、

「ンミキサー」で提携を進めた。今後、評価が高い。だが海外での受注も積極化が、櫻製作所としたい考えた。

同様の困り事を櫻製作所の16年3月期売上高は9億3000

抱えていた。これらの技術を櫻0万円（15年3月期は

6億8000万円）の見通し。今後、システム提案などで毎年3億

円ずつの上積みを目指す

ことが出来る。

井上社長は商社出身していく。

中小同士の利点生かす

機械・ロボット・航空機